

試料・情報利用研究計画書(概要)					
研究番号	2023-1010	利用形態	共同研究		
研究題目	日本でのサイトメガロウイルスならびにエプスタイン・バーウイルスの血中抗体陽性率とその感染の健康との関連に関する研究			研究期間	2024年2月～ 2026年1月
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構		責任者 氏名・職	児玉 栄一	教授
分担研究機関	Moderna,Inc.		責任者 氏名・職	Sue Hall	ディレクター
研究目的と意義	ほとんどの国民が感染し、軽症で経過することが知られているサイトメガロウイルス(CMV)及びエプスタイン・バーウイルス(EBV)の血中抗体陽性率を測定することで、両ウイルスの日本における近年の感染状況を明らかにします。また妊娠期間中のCMV感染と死産・流産との関連性を探索します。 本研究の結果を利用することによって例えば将来日本人へのこれらのウイルスに対するワクチン接種が実現すれば、少子高齢化対策や疾患予防に役立つ可能性があります。				
研究計画概要	・日本におけるCMV、EBVウイルスの血中抗体陽性率の研究 三世代コホートの参加者(4歳～40歳)のCMV血中抗体の有無、同参加者(4歳～30歳)のEBV血中抗体の有無、及び同参加者(4歳～30歳)のCMV、EBVの血中抗体の有無の年齢別、性別での分布を調べます。ELISA法でIgG抗体価を測定し抗体陽性を判定し、全体、各年代、性別での血中抗体陽性率(既往感染率)を調べます。 ・CMV感染と死産・流産との関連性の探索 三世代コホートで母親として参加され死産・流産となった方と、出産に至った方とで、CMV初回感染率、既往感染／慢性感染率を比較し、CMV感染の妊娠継続に対する影響を調べます。ELISA法でCMV IgG抗体価、CMV IgM抗体価の測定を行い、またCMV IgG avidity 値を検討し、CMV感染状況を推定します。				
利用試料・情報	対象: ・東北メディカル・メガバンク計画 三世代コホートの詳細二次調査又は詳細三次調査に参加された方 ・東北メディカル・メガバンク計画 三世代コホートに母親として参加された方 試料:血清または血漿 情報:基本情報、調査票情報、検査情報				
期待される成果	本研究の結果を利用することによって例えば将来日本人へのこれらのウイルスに対するワクチン接種が実現すれば、少子高齢化対策や疾患予防に役立つ可能性があります。				
倫理審査等の経過	2023年11月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリティー面の配慮	CMV、EBVの血中抗体陽性率の解析結果については、個人が特定できないよう個人情報を加工し、電子媒体により共同研究機関であるModerna,Inc.へ提供します。東北大学東北メディカル・メガバンク機構において個人情報が加工された試料・情報のみを用いるため、提供する試料・情報には、個人が特定できる情報は含まれません。				
その他特記事項	共同研究費 (Moderna,Inc.)				
(事務局使用欄)	*公開日 2024年2月14日				